【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成30年4月26日(2018.4.26)

【公開番号】特開2017-127825(P2017-127825A)
【公開日】平成29年7月27日(2017.7.27)
【年通号数】公開・登録公報2017-028
【出願番号】特願2016-9838(P2016-9838)
【国際特許分類】
Ｂ０１Ｊ　35/04　(2006.01)
Ｂ０１Ｄ　53/94　(2006.01)
Ｆ０１Ｎ　3/28　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０１Ｊ　35/04　３０１Ｃ
Ｂ０１Ｊ　35/04　ＺＡＢ
Ｂ０１Ｄ　53/94　１００
Ｆ０１Ｎ　3/28　３０１Ｐ

【手続補正書】
【提出日】平成30年3月16日(2018.3.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
両端開口の筒状外皮（１１）内を区画するセル壁（２）と、
該セル壁に囲まれ、上記筒状外皮の軸方向（Ｘ）に平行配設されると共に多角形の断面形状を有する多数のセル（３）と、を備える、ハニカム構造体（１）であって、
該多数のセルのうち少なくとも一部の上記セルにおいて、上記セルの多角形の頂点周りに設けられ、上記セル壁を貫通する通孔（４１）と、該通孔の端縁部から上記セルの内方に傾斜して突き出す突壁（４２）とを形成する突起片（４）を有する、ハニカム構造体。
【請求項２】
上記突起片は、上記セル壁に設けられた切起し片からなる、請求項１に記載のハニカム構造体。
【請求項３】
上記突起片を設けた上記セルが複数隣接して配置される、請求項１又は２に記載のハニカム構造体。
【請求項４】
上記セルが開口する端面（１２）に、上記突起片を投影した投影面において、上記突起片の単位面積当たりの密度が、１個／ｃｍ^{2}以上である、請求項１～３のいずれか１項に記載のハニカム構造体。
【請求項５】
上記突起片の先端の高さＨと、上記軸方向の長さＬとは、Ｌ≧Ｈの関係にある、請求項１～４のいずれか１項に記載のハニカム構造体。
【請求項６】
上記突起片の先端の高さＨと、上記セル壁と上記セルの中心との距離Ｄｃとは、Ｄｃ≧Ｈの関係にある、請求項１～５のいずれか１項に記載のハニカム構造体。
【請求項７】

上記突起片は、上記セル壁に、上記軸方向に間隔をおいて複数設けられる、請求項１～６のいずれか１項に記載のハニカム構造体。
【請求項８】
複数の上記突起片の距離Ｄｔと、上記軸方向の長さＬとは、Ｄｔ／２≧Ｌの関係にある、請求項７に記載のハニカム構造体。
【請求項９】
ハニカム構造体（１）に触媒を担持してなる触媒体であって、
上記ハニカム構造体は、
両端開口の筒状外皮（１１）内を区画するセル壁（２）と、
該セル壁に囲まれ、上記筒状外皮の軸方向（Ｘ）に平行配設されると共に多角形の断面形状を有する多数のセル（３）と、を備えており、
該多数のセルのうち少なくとも一部の上記セルにおいて、上記セルの多角形の頂点周りに設けられ、上記セル壁を貫通する通孔（４１）と、該通孔の端縁部から上記セルの内方に傾斜して突き出す突壁（４２）とを形成する突起片（４）を有する、触媒体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明の一態様は、
両端開口の筒状外皮（１１）内を区画するセル壁（２）と、
該セル壁に囲まれ、上記筒状外皮の軸方向（Ｘ）に平行配設されると共に多角形の断面形状を有する多数のセル（３）と、を備える、ハニカム構造体（１）であって、
該多数のセルのうち少なくとも一部の上記セルにおいて、上記セルの多角形の頂点周りに設けられ、上記セル壁を貫通する通孔（４１）と、該通孔の端縁部から上記セルの内方に傾斜して突き出す突壁（４２）とを形成する突起片（４）を有する、ハニカム構造体にある。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明の他の態様は、ハニカム構造体（１）に触媒を担持してなる触媒体であって、
上記ハニカム構造体は、
両端開口の筒状外皮（１１）内を区画するセル壁（２）と、
該セル壁に囲まれ、上記筒状外皮の軸方向（Ｘ）に平行配設されると共に多角形の断面形状を有する多数のセル（３）と、を備えており、
該多数のセルのうち少なくとも一部の上記セルにおいて、上記セルの多角形の頂点周りに設けられ、上記セル壁を貫通する通孔（４１）と、該通孔の端縁部から上記セルの内方に傾斜して突き出す突壁（４２）とを形成する突起片（４）を有する、触媒体にある。
なお、括弧内の符号は、参考のために付したものであり、本発明はこれら符号により限定されるものではない。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】

図３に示すように、共通の頂点を有する３つのセル３において、隣り合う３つのセル壁２の共通の頂点周りには、軸方向の略同等位置を切り起こして、それぞれ突起片４が形成されている。各突起片４は、セル壁２と一体の基端位置から各セル３内に突き出す突壁４２を構成し、切り起こしによりセル壁２に形成される開口部は、通孔４１となる。ここでは、突壁４２は、セル内方に凸となる湾曲形状を有して、六角形の頂点に沿う基端位置に近い側で高さが低くなり、また頂点からセル内方に延びる基端位置へ向けて高さが低くなる傾斜形状を有して、通孔４１を覆うように配置されている。なお、図３中には、３つのセル壁２のうちの２つに形成した突起片４を図示しているが、残る１つに形成される突起片４も同様の形状とする。